

年表

昭和十二年

二月十一日 大命降下

四月七日 編成完結

十一日 衛戍地出發

十二日 新潟出發

十五日 羅津上陸

十六日 五常駐屯地着

自五月二十三日至六月七日 篠原部隊第一次討伐

七月七日 蘆溝橋事件勃發

十一日 閣議北支派兵に決し聲明を發す○香月中將支那駐屯軍司令官に補さる

二十五日 郎坊事件起る

二十六日 陸軍機出動爆撃開始

二十七日 宋哲元宛最後通牒を發す

年表

三〇五

0591

七月二十八日 第二十九軍啓戦開始

二十九日 通州事件起る

八月八日 北平入城

九日 上海に大山事件起る

十三日 猪鹿倉部隊長着任

十四日 廟議上海派兵に決し重大聲明發表○上海陸戦隊攻撃を受け應戦○海軍機翌十五日にかけて第一

回渡洋爆撃

十五日 帝國政府暴支膺懲重大聲明發表

十八日 ○○○兵下令

二十一日 北支出動のため五常發○(ソ支不可侵條約發表さる)

二十三日 陸軍部隊羅店鎮方面揚子江沿岸及吳淞鎮附近に敵前上陸○居庸關陥落

二十五日 第三艦隊司令長官揚子江・汕頭間支那海の支那船舶航行遮斷を宣言

二十七日 承德着、張家口入城

三十日 張 北 着

九月二日 臨時閣議に於て北支事變を支那事變と改稱

三日 永 嘉 堡 集 結○陸戦隊東沙島占據

五日 支那船舶の全支沿岸航行遮斷宣言

三〇六

0592

六日 天鎮附近の戦闘○陸軍機上海戦線に出動

十日 鎮邊附近の戦闘

十三日 大同入城同地警備

十五日 上海方面に松井大將、北支方面に寺内大將を夫々最高指揮官として派遣の旨陸軍省發表

十八日 涿州入城

十九日 陸軍機太原を空襲敵七機を撃墜○海軍機南京連爆敵三十二機を撃墜

二十日 九月二十一日以後の南京空爆に關し第三艦隊司令長官より第三國に對する通告並に支那非戦闘員に對する警告を發す

二十一日 海軍機廣東連爆

二十二日 陸軍機太原空襲敵七機を撃墜

二十四日 保定、滄州陥落○海軍機漢口初空襲

二十七日 濟南占據

二十九日 鐵角嶺攻略

十月一日 日代縣入城

八日 正定占據

九日 石家莊攻略

十一日 原平鎮完全攻略成る

年 表

1104

0593

十月 十二日 國民精神總動員中央聯盟發會式

十四日 南庄頭附近の戰闘始まる○綏遠城占據

十七日 包頭占據○陸軍機太原、太谷爆撃

十八日 海軍機漢口連爆

二十三日 大場鎮及江灣鎮方面に對し總攻撃開始

二十四日 大場鎮、廟行鎮占據

二十七日 上海戦線に於て陸軍部隊陸戰隊と握手

二十八日 蒙古聯盟自治政府成立

三十日 陸軍機太原連爆

三十一日 蘇州河渡河敢行

十一月 二日 陸軍機太原を連爆

五日 陸軍部隊杭州灣金山衛一帶地區に奇襲敵前上陸

六日 日獨伊三國防共協定ローマにて調印

九日 太原 入 城○上海包圍陣成る

十一日 皇軍浦東上陸○陸軍機洛陽猛爆

十二日 北支及内蒙方面にて作戦せる陸軍將兵に對し優渥なる勅諭を賜ふ

十三日 白赤口敵前上陸○嘉定占據○陸軍機西安空襲

0594

十六日 國民政府、軍事關係機關を除く其他の行政機關を南京より奥地に移すに決定、重慶を臨時首都とする旨發表

十九日 常熟、蘇州、嘉興陥ち黃浦江水路啓閉成る

二十日 上海方面に作戦中なる陸軍將兵に對し優渥なる勅語を賜ふ○大本營設置せらる○國民政府重慶

遷都發表

二十七日 原駐地歸還の爲太原出發

十二月 二日 陸海軍機連續南京痛爆

三日 日原駐地着

四日 海軍機濰縣、蘭州爆撃敵二十數機爆碎

七日 蔣介石南京脱出

十日 南京總攻撃開始、光華門占據

十一日 (伊國國際聯盟脱退通告)

十二日 南京攻略成る

十四日 北平に中華民國臨時政府成立、北平を北京と改稱

十七日 南京入城式舉行

二十二日 海軍機蘭州連爆

二十四日 杭州占據

二十六日 青島交通遮斷宣言

年表

三〇九

0595

十二月 二十七日 濟南入城

昭和十三年

一月 十日 海軍封鎖部隊の一部青島を占據

十一日 濟寧占據

十六日 帝國政府、爾後國民政府を對手とせず、との重大聲明を發表す

二十日 北支方面最高指揮官寺内大將北京に移駐

二十四日 海軍機宜昌初空襲

二月 二日 蚌埠占據

三日 芝罘占據

九日 中支一帯の敵財産軍事管理に決定、陸軍當局談を發表

十一日 黄河作戦開始

二十一日 海軍機宜昌、衡陽、麗水等空襲、敵二十一機を爆破

二十三日 軍司令官朝香中將宮殿下御歸還○上海方面最高指揮官松井大將、杭州灣上陸軍司令官柳川中將

歸還、如俊六大將新たに同方面最高指揮官に親補さる

二十五日 海軍機南昌空襲、敵三十七機撃墜

二十六日 澤州占據

二十七日 臨汾占據

0596

- 二日 曲沃占據
- 六日 蒲州占據
- 七日 海軍威海衛占據
- 八日 陸軍機襲陽空襲、敵二十二機を撃墜爆破
- 十日 第三十三回陸軍記念日
- 十二日 片山新兵團長着任
- 十三日 (獨塊合邦成る)
- 十八日 崇明島掃蕩
- 二十四日 國家總動員法成立
- 二十五日 陸軍機歸德飛行場攻撃、敵十四機撃墜
- 二十八日 中華民國維新政府南京に成立
- 四月 三日 台兒莊占據
- 十日 陸軍機歸德上空空中戦に於て敵二十四機を撃墜
- 十三日 海軍機天河、白雲、縦化爆撃、敵十五機撃墜
- 二十日 沂州入城
- 五月 八日 阜寧占據
- 九日 蒙城占據

年  
表

三十一

0597

五月

十一日 海軍部隊、厦門島に敵前上陸

十二日 西尾中將教育總監に親補さる

十三日 陸海軍機徐州連続猛爆

十四日 隴海線遮断

十八日 徐州總攻撃開始

十九日 徐州完全攻略成る

二十四日 大本營陸軍部徐州會戦々果發表―敵死傷廿萬、二十三日迄に判明せる遺棄死體六萬〇關封陥落

二十七日 陸軍機鄭州猛爆

二十八日 歸德攻略〇海軍機廣東連爆

六月

二日 開封占據

三日 陸相更迭、杉山大將退き板垣中將親任さる

九日 移駐のため五常出發〇國民政府漢口在留の政府諸機關輿地移轉を命令

十日 新駐屯地掖河着

十三日 安慶占據。支那軍黄河を破壊、溺死者十萬に及ぶ

十七日 潜山攻略

二十六日 馬頭鎮攻略〇陸軍機南昌空襲、一對十の空中戦に於て敵十數機を撃墜〇海軍機南昌空襲、敵十

八機撃墜

二十七日 陸軍機南昌再空襲、敵十五機を撃墜〇陸軍航空隊の事變以來六月迄の敵機撃墜數百五十三機撃



破敵八十四機と當局發表

二十八日 彭澤占據

### 七月

四日 湖口占據○海軍機南昌空中戦に於て敵四十五機を撃墜

七日 支那事變一周年に當り優渥なる勅語を賜ふ

十一日 移駐のため掖河出發

十二日 ソ聯兵越境張鼓峯を占領、陣地を構築す

十四日 稜 着

十八日 海軍機南昌空襲、敵地に着陸地上機を焼く

二十六日 九江、太湖占據

二十九日 ソ聯兵沙草峯に越境のため我軍これを監視、兩軍對峙

三十日 滿ソ東部國境紛争熾烈化する

三十一日 皇軍越境のソ聯兵を撃退、滿洲國領土を回復

### 八月

一日 ソ聯機越境滿鮮上空に飛來、我軍五機を撃墜○宿松占據

三日 海軍機漢口空中戦に於て敵三十二機を撃墜、地上七機を爆破

五日 陸軍機西安空襲

十日 日ソ停戦協定成立

十一日 海軍機武漢連爆

0599

八月

十三日 海軍機鄭州空襲、敵二十餘機を爆碎  
十五日 張鼓峯の皇軍に優渥なる勅語を賜ふ  
十七日 蒲州占據

十八日 海軍機衡陽、實慶空襲、敵十六機を撃墜二十五機を撃破

二十一日 星子占據

二十四日 瑞昌攻略

三十一日 海軍機南雄空襲、敵十七機を撃墜

九月

三日 馬回嶺占據

七日 皇軍塘沽上陸

十七日 光州攻略

二十六日 陸軍機漢口空襲、敵十二機撃墜

二十八日 雲南初空襲○海軍機昆明空襲敵二十機を撃墜

二十九日 田家鎮攻略

十月

五日 箬溪入城

八日 蕪春城占據

九日 隘江街占據

十日 (獨軍ステーション地區を完全占領と公表)

十一日 京漢線遮斷

十二日 皇軍パイアス灣北岸平海半島西岸に奇襲上陸○信陽攻略

十九日 増城占據

二十日 大冶鐵山占據

二十一日 廣東入城

二十二日 珠江遡江作戰開始

二十四日 陸海協力、虎門要塞攻略

二十七日 武漢三鎮完全攻略成る○德安占據

### 十一月

三日 帝國、武漢陥落後の不動の方針聲明

五日 大本營陸軍部發表「漢口作戰々果、敵死傷三十五萬餘、我軍犠牲六千五百三十三、廣東作戰々果、敵死傷二萬餘、我戦死七十七」○海軍機梁山空襲敵十五機を撃墜

十一日 岳州に突入

十八日 南支方面最高指揮官更迭、安藤中將親補さる

十九日 東莞占據

二十日 陸軍機延安初空襲

二十三日 皇軍山西省討伐戦開始

### 十二月

四日 廣東南方九江方面の掃蕩

九日 北支方面最高指揮官更迭、杉山大將親補さる

十日 陸軍航空總監部新設、初代總監に東條中將就任

年表

三二五

0601

十二月

十一月 (マール選挙にドイツ派大勝、十四年三月廿二日を以て獨に復歸)

十二日 山脇中將陸軍次官就任

十四日 陸軍機昭平空襲

十八日 汪精衛氏重慶を脱出す

十九日 陸軍機神木、嵐縣空襲

二十六日 陸軍機重慶初空襲、以後連爆○事變以來十月末日迄の敵遺棄死體八十二萬三千餘、推算敵損害

二百萬、占據面積百五十一萬五千六百九十六平方杆(我が全土の二倍強)に對し、我が戦死者

四萬七千三百三十三名—大本營陸軍部發表○(フランコ軍バルセロナ入城)

昭和十四年

一月

三日 中支方面最高指揮官更迭、山田中將親補○(一九三九年米國海軍大演習太平洋上に開始さる)

五日 平沼内閣成立

十日 陸軍機重慶空襲

十一日 陸軍機江空襲

十五日 陸軍機第四次重慶爆撃

二十六日 吳佩孚將軍、全國に驟起通電を發す

二月

二日 滿洲國西部國境にソ聯兵越境頻々

十日 皇軍海南島に奇襲上陸

三月

- 十二日 陸軍機蘭州第一次爆撃、敵十八機撃墜、地上二十機を撃破
- 二十日 陸軍機蘭州第二次爆撃、敵三十六機を撃墜
- 二十三日 安陸作戦開始○陸軍機第三次蘭州空襲、敵五十六機を撃墜
- 二十五日 海州作戦開始さる
- 四日 海州占據
- 五日 鍾祥占據
- 六日 鍾祥南方に大殲滅戦展開○陸軍機延安、寧夏、嵐縣猛爆
- 七日 陸軍機涼州、西安空襲
- 八日 海軍機宜昌連爆
- 十日 第三十四回陸軍記念日
- 十四日 陸軍機西安空襲
- 十五日 陸軍機平涼、西安猛爆○(チエツコ、獨の保護國となる)
- 十八日 皇軍修水渡河殲滅戦展開
- 二十三日 吳城占據
- 二十七日 南昌占據○國府重慶諸官廳分散を命令
- 二十八日 (フランコ軍マドリッド入城)
- 二十九日 武寧縣城占據
- 三十日 新南群島臺灣總督府管下に入る

年 表

三二七

0603

四月二日 高安占據

三日 陸軍機、西安空襲

六日 陸軍機棗陽、隨縣を連爆

七日 陸海軍機重慶芷江空襲

八日 海軍機昆明空襲、敵四十一機撃墜

十二日 (アルバニア、伊國治下に入る)

十四日 海軍機雲南省蒙自初空襲

二十二日 敵の「四月攻勢」潰滅と中支軍發表

二十五日 敵の「四月攻勢」潰滅と北支軍發表

二十九日 陸軍機南鄭空襲、敵十一機撃墜

五月三日 海軍機重慶空襲、敵十機を撃墜

四日 四月攻勢反撃の結果、敵の遺棄死體二萬二千九百、我戦死三百八十一、大本營發表

六日 陸軍機南鄭空襲

八日 信陽、浙河一帯殲滅戦展開

十一日 外蒙軍、ノモンハン方面に不法越境

十六日 黄河の治水工事は我方の手で十四日完成した旨北支軍發表

二十九日 事變以來四月末迄の戦果、敵の遺棄死體九十三萬六千三百四十五、我戦死五萬九千九十八、敵に

與へし損害二百三十萬、大本營陸軍部發表○ノモンハンに於て越境のソ聯機との空中戦で四十

0604

二機撃墜

三十一日 魯南地區の掃蕩戦開始○廈門に新鋭部隊上陸○事變以來敵飛行機に與へし損害一千五百六十一機、我損害百六十機、處分機雷數合計三千五百箇、大本營海軍部發表

六月

五日 山西省柳林鎮占據

七日 山東戦線動き蒙陰占據

九日 魯南作戦成功、沂水攻略、莒縣占據

十四日 天津英佛租界の隔絶斷行

十五日 外蒙軍、ハルハ河越境

二十一日 汕頭敵前上陸

二十二日 外蒙ソ聯機甘珠爾廟附近に百五十機越境飛來、我方十八機を以て敵四十九機を撃墜—關東軍發表

二十四日 陸戦隊、舟山列島に敵前上陸

二十七日 外蒙機二百機とホイル湖上で空中戦、九十八機を確實に撃墜、我が爆撃機タムスク空襲、三十機を爆碎—關東軍發表○潮州占據

七月

二日 關東軍、外蒙軍に對し總攻撃開始

三日 山西省南部潞安地區に掃蕩戦開始

五日 四月滿蒙國境上空で敵五十三機撃墜と關東軍發表、地上部隊は敵戦車四百臺を鹵獲、或ひは炎上せしむ

年表

0605

七月

六 日 ポイル湖上空で敵二十四機撃墜○海軍機重慶連爆○事變以來七月五日迄の二年間に敵機撃墜六百七十二機、地上撃破百七十六機（滿蒙國境を含む）——大本營發表

七 日 支那事變二周年記念日

八 日 涉縣占據○ノモンハン上空及甘珠爾廟上空で夫々敵二十七機、二十二機を撃墜

九 日 ポイル湖上空で敵二十九機を撃墜

十 日 滿蒙國境上空で敵六十五機を撃墜○汪精衛氏蔣介石との絶縁聲明を發表

十一日 福建新作戦開始、潞安占領

十五日、日英會談東京に於て開催

十九日 山西省澤州城占據

二十一日 ポイル湖上空で敵三十九機を撃墜

二十三日 ノモンハン上空で敵四十四機を撃墜

二十四日 ノモンハン上空で敵四十一機を撃墜

二十六日 米、突如日米通商航海條約廢棄を通告

二十八日 日英第五次會談經濟問題で行惱む○滿蒙國境上空に於ける確實なる敵機撃墜數七百十五機、敵

遺棄死體四千以上

八月

三日 七月二十七日以後の滿蒙國境紛争に於て撃墜せるソ蒙機六十九機

六 日 陸軍機、宜昌空襲

七日 ホロンバイル附近上空に於て敵四十七機を撃墜



- 十四日 日英會談現地軍代表引揚ぐ
- 十六日 英支國境に新作戦、深圳占據、投將香港ルート遮斷
- 十九日 海軍機四川省嘉定初空襲
- 二十一日 滿蒙國境上空でソ聯機二十九機を撃墜
- 二十二日 ノモンハン事件突發以來二十一日迄の確實なる撃墜敵機數一千百一機—關東軍發表
- 二十三日 (獨ソ不可侵條約調印)
- 二十六日 **ハロンアルシヤンに向け出動**
- 二十七日 越境ソ蒙軍をハルハ河に壓迫、敵戰車百餘臺を爆破
- 二十八日 平沼内閣總辭職
- 二十九日 **ハロンアルシヤン着、直ちにハンダガイに急進**
- 三十日 **ハンダガイ着**○阿部内閣親任式○滿蒙國境空中戰連日戰果あがる
- 三十一日 **吉九高地着**○(英獨交渉決裂)
- 九月 一 日 第一回興亞奉公日○蒙古聯合自治政府成立、徳王主席に就任○(ダンチヒ獨復歸宣言)
- 二 日 ハルハ河附近の戰闘
- 三 日 (英佛對獨宣戰布告)
- 四 日 帝國政府歐洲戰爭に不介入の旨中外に聲明
- 五 日 (米中立法發動宣言)

年 表

三三二

0607

九月 十一日 海軍機遣縣初空襲

十二月 十二日 支那派遣軍總司令部編成、總司令官に西尾大將、總參謀長に板垣中將親補○植田大將の後任として關東軍司令官に梅津中將親補さる

十六日 ノモンハン事件停戦協定成立

十七日 皇軍岳州上流へ遼江作戦開始

十八日 多田中將、杉山大將の後を受けて北支最高指揮官に親補○江西作戦展開し高安攻撃

二十四日 中支軍、江南作戦開始を發表

十月 一日 支那派遣軍總司令部南京に創設、西尾總司令官總司令部編成の意義を闡明す○澤田中將參謀次長に就任

二日 中支軍、肝胎に敵前上陸を發表

五日 第一線撤去の命に依り原駐地に向ひハロンアルシヤン驛出發

七日 中山縣城占據

八日 穆 稜 着

十日 陸軍機西安連爆

十一日 陸軍機西安反復猛襲○海軍機自流井初空襲

十二日 陸軍機渭南空襲

十四日 山田中將教育總監に、阿南中將陸軍次官に就任

十五日 陸軍機延安、秋林鎮、宜川猛爆

十六日 陸軍機洛川、蒲城空襲

十九日 (獨ボーランド回廊及上部シレリア合併を宣言)

二十五日 陸軍機南鄭、陝縣、澗池を猛襲

二十六日 陸軍機西安空襲

二十九日 陸軍機陝縣空襲

三十日 陸軍機洛陽連爆、平涼猛襲

十一月 四日 皇軍安徽省鳳臺を占據

十日 藤田中將上海陸軍諸部隊指揮官に親補

十一日 陸軍、農家出身下士官兵に米收納の休暇を許可す

十五日 皇軍、廣東省北海沿岸欽州灣附近に奇襲上陸

十七日 欽州城占據

二十四日 南寧縣城占據

十二月 十八日 帝國政府長江南京下流開放決定を各國に通告す

二十一日 皇軍佛印國境附近に新作戦展開、龍州、鎮南關占據

二十六日 良口墟占據

二十八日 陸海軍機聯合して二十六日以来蘭州を三日間連爆

年 表

第三冊

0609

昭和十五年

年表

三三

一月十日 海軍機桂林空襲、敵二十二機を撃墜破

十四日 阿部内閣總辭職

十六日 米内内閣親任式

十九日 支那軍の冬季攻勢全面的に壊滅—南支軍發表

二十二日 中支軍、浙東作戰を展開

二十五日 日米通商航海條約失効

二月一日 オルドス地帯作戰の皇軍、烏鎮を占據

二日 廣西省貴陽陥落

三日 五原占據

十日 福榮新兵團長着任

十八日 山東半島文登占據

三月八日 中山縣城再度占據

十日 第三十五回陸軍記念日

十二日 汪精衛氏新中央政府樹立宣言發表

十八日 西尾總司令官軍管理工場返還に關し聲明

二十日 支那中央政治會議開催

0610

四月

三十日 汪精衛氏を首班とする新國民政府南京に成立

九日 (獨軍、丁抹及諾威に進入)

十五日 阿部特派大使出發

二十三日 皇軍、洞庭湖に進撃開始

二十五日 澤州占據

二十八日 支那派遣軍總司令部「派遣軍將兵に告ぐ」と題する小冊子を全線の將士に配布す

五月

三日 支那方面艦隊黃浦江上流開放を發表

八日 婁陽陥落

十日 (獨軍、オランダ及ベルギーに進入)

十九日 (獨總統、白國歸屬獨領の合併を布告)

二十日 漢水作戰の皇軍、白河を無血渡河

二十一日 北支軍當局、不良外人の追放を聲明

六月

三日 皇軍宜昌占據

十日 (伊國、獨を支持參戰)

十一日 皇軍宜昌占據

十二日 陸海軍機協力重慶猛爆

十四日 (獨軍、パリ入城)

十七日 南支軍、佛印援蔣物資輸送路遮斷作戰開始○(佛國、獨に降伏)

年表

三三五

0611

六月 十九日 我が方佛印の敵性に抗議

二十二日 南支軍香港北方に新作戦展開、寶安に上陸

二十五日 大本營海軍部佛印援將禁絶監視のため艦艇の一部と監視團を派遣する旨發表

二十七日 英支國境方面の皇軍龍崗城を占據○佛印監視作戰の皇軍寧明を占據

二十九日 中支軍長江敵前渡河、宜昌對岸高地を占據○佛印監視作戰の皇軍鎮南關を奪取

七月 一日 佛印監視作戰の皇軍龍州縣城を占據

五日 南京で阿部大使汪主席間に日支國交調整交渉開始

七日 支那事變三周年記念日○陸軍事變以來の綜合戰果發表、敵遺棄死體百五十八萬七千六百一但し敵の遺棄死體は私の目撃せるもののみで然らざるものも計上する時は敵に與へた損害、(死傷、逃亡、歸順等)總計少くも三百數十萬と判斷せらる—我が戦死八萬五千八百名、我が戦線延長約四千六百軒、占據面積約百六十萬平方軒、(我が全土の約二倍半弱)占據地以外の支那本土との比約百分の五十一、支那全土との比約百分の十六(以上六月中旬迄)、敵機に與へた損害、擊墜三百九十六機、地上爆破百六十八機、滿蒙國境に於てソ聯機に與へた損害、擊墜千三百四十機、地上爆破三十機、合計千九百三十四機、我方の損害機數、事變五十七機、滿蒙國境百三十七機、合計百九十四機(以上六月下旬迄)

十二日 大本營海軍部廣州灣へも援將禁絶監視員派遣方決定を發表

十三日 陸軍兵備體系改革、北、東、中、西部の四軍管區設定

十五日 支那方面艦隊司令長官、寧波、温州、三都澳、福州に援將路完封新作戦開始を宣言

0612

十六日 米内内閣總辭職

十八日 海軍鎮海占據

二十二日 第二次近衛内閣親任式

## 八月

一日 陸軍胸章廢止實施

十日 支那方面艦隊司令長官、中南支海港封鎖區域擴大を第三國に通告、十五日より實施

十三日 大命に依り第〇〇〇〇團に編入

十五日 南支海軍、下川島占據

二十八日 新體制第一回準備會開かれ首相指導理念を聲明、新體制確立運動發足

三十一日 日支交渉完結、共同聲明發表

## 九月

四日 北白川宮永久王殿下、蒙難で御戰死遊ばさる

十二日 小林特派使節蘭印着

十三日 海軍機第三十五次重慶爆撃で敵二十七機を撃墜

十四日 陸軍、兵種兵科の區分撤廢と「兵長」の新設に關する法令公布

十八日 移駐のため穆稜發○滿洲事變九周年記念日

二十日 哈爾濱 着

二十三日 日佛兩國政府諒解の下に皇軍佛印進駐

二十五日 皇軍更に海防より佛印へ進駐

二十七日 日獨伊三國同盟伯林で調印、長くも詔書を換發あらせらる

年  
表

三二七

0613

十月 第五回國勢調査

三日 閣院參謀總長宮殿下御退任、後任に杉山大將親補さる

四日 雷州半島に陸戰隊敵前上陸

六日 陸軍機、佛印河内飛行場に進駐

十二日 大政黨賛會發會式舉行さる

十八日 中支軍、敵第三戰區の中央兵團竝に敵軍事施設の覆滅を續行すると共に東部兵團方面に作戰中

と發表○英國ヒルマ・ルートを再開○海軍機、再開初日のビルマ・ルートを猛爆

十九日 安藤中將に代り、後宮中將南支方面最高指揮官に決定

二十八日 皇軍、作戰上の價值喪失のため南支を撤退する旨南支派遣軍聲明○(伊、希兩國交戰状態に入る)

十一月 六日 (ルースヴェルト米大統領三選)

十日 紀元二千六百年記念式典舉行さる

十四日 皇軍の欽縣撤退を大本營陸軍部發表

二十四日 元老西園寺公望公薨去

三十日 日華基本條約締結さる○日・滿・華三國共同宣言發表

十二月 九日 藤田中將に代り、上海方面陸軍最高指揮官に澤田中將親補さる

十二日 海軍機、祥雲で敵二十二機撃墜

十四日 小田部隊長着任

十六日 臨時中央協力會議開催さる

0614



昭和十六年

- 二十三日 支那方面艦隊司令長官、中南支沿岸の封鎖強化を中外に宣言
- 二十四日 大本營海軍部戦果公表―事變以來敵飛行機撃破千九百二十八機、我損害百五十三機、處分せる敵機雷數五千六百十八、昭和十五年一年間の投擲量八千五百十九機
- 二十八日 本多特命全權大使汪主席に信任狀捧呈、日支國交茲に復舊す
- 二十九日 大本營陸軍部戦果發表―事變以來十一月下旬迄の敵遺棄死體百八十八萬八千三百五十一―但しこの數字は我目撃せるもののみで然らざるものを計上する時は、敵に與へた損害（死傷、逃亡、歸順等）總計少くとも三百五十萬と判斷せらる―我方の犠牲、本年末迄十萬千八百九十九名（張鼓峯、ノモンハン兩事件を含む）、敵機撃破數、事變五百八十八機、ノモンハン事件千三百八十九機、我が自爆數、事變六十機、ノモンハン事件百三十七機
- 三十日 海軍機成都、恩施を空襲、敵二十九機爆碎
- 一月二日 勞澤使節蘭印總督訪問、日蘭印第一回會談開催さる
- 三日 陸軍機南陽、鄭州爆撃
- 六日 日（米ル大統領教書を發表、民主主義國徹底援助を強調す）
- 八日 東條陸相、陸軍訓令第一號を以て「戰陣訓」を示達
- 二十三日 海軍機効果新橋を爆碎、ビルマ・ルート再び遮斷さる
- 二十五日 河南の敵大殲滅戰展開さる

年表

一月 三十一日 泰・佛印停戰協定成立

二月 四日 皇軍、南支惠州東南に奇襲上陸、香韶ルートを遮断す○信陽北方作戦の皇軍南陽に突入

七日 泰・佛印國境紛争調停會議開かる

十五日 百七十億の明年度總豫算成立

十八日 蘇北の敵大殲滅戦展開さる

十九日 江北遊撃隊三萬我方に歸順

二十一日 陸軍機雲南を痛爆

二十五日 江北に新作戦展開

二十七日 國防保安法成立

三月 一日 支那派遣軍總司令官に畑大將親補さる

三日 皇軍、南支援蔣策源地へ奇襲上陸

四日 陸軍將校分限令と陸軍武官進級令の改正閣議で決定○陸軍機長沙急襲

六日 宜昌西岸に新作戦展開

八日 (武器貸與法案米上院を通過)

十日 第三十六回陸軍記念日

十一日 泰・佛印國境紛争調停東京に於て成立、日・泰・佛三國共同聲明發表

十二日 松岡外相渡歐の途に就く

十三日 皇軍作戦目的を達成、武寧、通城より撤退

0616

年表

- 四月
- 十四日 海軍機成都空襲、敵二十六機を撃墜破
  - 十五日 南昌周邊の敵撃退戦を展開
  - 十七日 西尾前支那派遣軍總司令官帝都に凱旋○皇軍高安を攻略
  - 二十日 改正國家總動員法施行○太湖西南地區に新作戦展開
  - 二十一日 上高を占據、大殲滅戦を展開
  - 二十四日 南支軍部隊紅海灣、達濠水道附近に敵前上陸
  - 二十六日 粵東作戦、戦果を擴大と南支軍發表
  - 二十七日 松岡外相、ヒトラー總統と初會談
  - 二十八日 皇軍、南支碣石灣に奇襲上陸
  - 六日 (獨軍、ユーゴー及ギリシアに進攻)
  - 八日 陸軍機、昆明猛爆
  - 九日 伏見軍令部總長宮殿下御退任、後任に永野大將親補さる○陸軍、機甲本部を新設
  - 十日 陸軍次官に木村中將、機甲本部長に吉田中將就任
  - 十一日 陸軍機、雲南廣西兩省軍事據點を爆碎
  - 十三日 日ソ中立條約モスクワにて調印
  - 十四日 大洪山東麓に第二期作戦開始
  - 十五日 陸軍機龍州、寧明、憑祥空襲、金華、蘭谿連爆
  - 十六日 錢塘江南岸に新作戦展開

三三十一

8200

0617

四月

廿七日 南支沿岸封鎖を強化の旨、島田司令長官宣言○(ユーゴ)軍無條件降伏)

廿八日 陸軍機、蒙自猛爆○昨年十月の國勢調査の結果發表さる、帝國總人口一億五百二十二萬六千

一人

十九日 皇軍浙江省岸に奇襲上陸、鎮海城を攻略○陸軍機蒙自連爆

二十日 寧波、温州を占據

二十一日 福州占據○陸軍機、ビルマ・ルート竝に簡舊を猛爆

二十三日 (獨軍、ギリシャ軍の無條件降伏を發表)

二十六日 陸軍機、簡舊始め雲南省各地を急襲、敵軍需補給源を復滅す

二十八日 新設の化兵監に町尻中將就任

二十九日 陸軍機第三次昆明爆撃

五月

一日 皇軍、廣東省東岸甲子港に奇襲上陸○河北省一部の警備隊を治安軍と交代する旨、北支軍當局

發表

三日 燕湖南方に新作戦展開○皇軍温州海州より撤退す

六日 日・佛印經濟協定成立○皇軍湖北に新作戦展開○陸軍機鄭州、西安、咸陽を猛爆○殷家店占據

○(スターリン書記長、首相に就任)

七日 畑支那派遣軍總司令官、國際關係の好轉に頼らず作戦に邁進せんと決意を表明

八日 皇軍、山西、河南省に大殲滅戦を展開○陸軍機、昆明第四次猛爆

九日 日泰・佛印間平和條約東京で調印

- 十日 國防保安法實施さる
- 十一日 陸軍機昆明、（雲南）箇甯猛爆
- 十二日 香韶ルート遮斷強化のため南支に新作戦展開、惠州に突入す○中支三地區に新作戦○陸軍機昆明を連爆○（ヘス獨副總統離國渡英す）
- 十五日 皇軍、江北第二期作戦開始、棗陽を占據
- 十七日 第八路軍討伐のため漢大隊出動
- 十八日 北支軍、中原會戦の經過竝に戦果發表、敵の遺棄死體三萬四千○陸軍機、西安、渭南猛爆
- 十九日 陸軍機洛陽連爆
- 二十三日 中支軍江北作戦終了
- 三十二日 滿獨貿易協定更改成る
- 六月 四日 日（對日輸出認可制強化をハル國務長官言明）
- 六日 日 蘭印總督日・蘭印會談の對日回答を芳澤使節に手交す
- 七日 日 日本帝國クロアチア國を承認
- 九日 日 陸軍航空總監に土肥原大將親輔
- 十一日 日 ソ通商貿易協定調印
- 十四日 日 在蘭印の芳澤代表に帝國の回訓を發送の旨發表○訪日の汪主席上海を出發
- 十五日 日 國民政府と協力し、清郷工作の徹底を期す旨、中支軍發表
- 十六日 日 滿蒙國境の確定成り、六月二十七日より現地作業開始の旨發表○第一回中央協力會議開催

解 素

三三三

0619

六月

十七日 中華民國主席行政院長、汪精衛氏入京

十八日 對蘭印交涉打切りの旨發表

二十日 臺灣に志願兵制度實施を閣議で決定

二十二日 (ドイツ、突如ソ聯へ宣戰布告)

二十三日 近衛首相、汪院長、共同聲明を發表

七月

十二日 北支方面海軍最高指揮官に杉山六藏中將就任

十四日 演 大 隊 歸 還

十五日 建川大使モロトフ外相と會談

十六日 近衛内閣總辭職

十七日 組閣の大命近衛文麿公に再降下

十八日 第三次近衛内閣成立

十九日 (フィンランド政府滿洲國を承認)

二十一日 澄田少將、ドクー佛印總督と會談

二十二日 皇軍臨城を占領○中支方面海軍最高指揮官に小松中將就任

二十三日 近衛首相、汪主席メツセージを發表

二十六日 佛印に對する日佛共同防衛協定成立○英米兩國日本資産を凍結

二十七日 日・蘭印爲替協定を停止の旨、ジャワ銀行發表

二十八日 在蘭印の日本資産凍結と輸出制限を斷行の旨蘭印當局發表

0620

0130

八月

- 二十九日 日佛共同防衛協定に基き陸海軍部隊を佛印に増派の旨、大本營陸海軍部發表○日佛共同防衛協定書に加藤駐佛大使とタルラン佛副主席正式調印す
- 一日 タイ、滿洲國を承認○(フィンランド・イギリス間の國交斷絶す)
- 二日 滿洲國「クローアチア」を承認○日佛共同防衛に關しアメリカ政府對佛強硬宣言を發表
- 四日 我佛印増派部隊配置完了、佛印防衛は日本に依存すと佛政府聲明を發表
- 六日 南方問題牽制の英米對日共同宣言發表
- 十日 タイ國中立を聲明
- 十一日 (イラン中立を聲明○英ソ、對土共同宣言發表)
- 十二日 (佛印當局全面的輸出禁止を發表○アメリカ五百億ドル國防豫算を發表○ヴィン政府對獨全面的協力を強調す)
- 十三日 (デンマーク、滿洲國を承認○ソ聯スモレンスク放棄を公表)
- 十四日 (英米ナチス打倒の共同宣言を發表)
- 十五日 (イギリス、シンガポールに大増派部隊を派遣)
- 十六日 日・泰兩國の公使館を大使館に昇格
- 十八日 (デンマーク、國民政府を承認○在イランドイツ人の退去を英ソ要求す)
- 二十日 ノモンハン附近の滿蒙國境確定○(重慶政府デンマークに國交斷絶を通告)
- 二十一日 (泰・佛印國境確定委員會開かる○赤軍ゴメル地區放棄を發表)
- 二十二日 (赤軍損失百萬とドイツ開戦以來の戦果を發表、赤軍損失七十萬、獨軍損失二百萬と赤軍發表)

年表

三三五

0621

八月

- 二十五日 (英ソ「イラン」に進入○エチアト、佛印間の通商關係斷絶)
- 二十六日 (米大統領重慶に軍事使節を派遣○蘭印經濟相日本に對し物資を供給せずと議會で演説)
- 二十八日 野村大使、近衛首相の親書を米大統領に手交○(イラン抗戰を停止し新内閣成立)
- 二十九日 (ヒットラト・ムツソリーニ共同宣言を發表)

九月

- 一日 (メキシコ大統領對米接近を聲明)
- 三日 皇軍福州方面より撤退
- 六日 重慶への西北輸送路潰滅すと軍當局發表
- 八日 (イギリス、カナダ、ノルウェー混成軍スピツベルゲンに上陸とカナダ政府發表)
- 九日 (レニングラード完全包圍なると獨當局發表○アメリカ商船擊沈事件に獨強硬態度を表明)
- 十一日 防衛總司令部新設、山田乙三中將初代司令官に親補さる
- 十二日 (ハル國務長官、防衛水域は獨の行動如何に依り決すると言明)
- 十四日 (アメリカ海軍防衛水域に於ける實力行使を發表○ソ聯クレメンチユグ撤退を認む)
- 十七日 (アメリカに三軍統合の總司令部新設さる)
- 十八日 ソ聯機雷による邦船爆沈に外務省抗議を發表○(ドイツ軍クリミヤ半島遮斷を發表)
- 十九日 (ドイツ軍キエフ入城、バルト海エーゼル島に上陸)
- 二十日 皇軍、泪水南岸に進出○十八日より南支東江方面に新作戰を展開の旨、軍報導部發表○(獨軍キエフ、ホルタヴァ完全占領)
- 二十二日 南支軍、西江方面に新作戰展開○(ドイツ軍アゾフ海に到着、クリミヤ赤軍孤立化)○佛印の經濟

0622



發展は日本に頼る外なしと、ドクー總督ラチオで放送す

二十二日 南支軍台山に入城○全支總領事會議を南京に開催

二十四日 皇軍金井に突入○海軍機重慶を猛爆

二十五日 陸軍機重慶猛爆○(シンガポール使用の米要求に英當局應諾○中立法廢棄法案米上院に提出さる)

二十六日 皇軍永安に突入

二十七日 三國條約締結一周年記念日○皇軍長沙に突入○(獨軍、キエフ地區の大戦果を發表、捕虜六十六萬、戦車八百九十台、砲三千七百門)

二十八日 皇軍長沙を完全占領○二十四日より南支北江方面に作戦展開中の旨、南支軍發表

二十九日 皇軍、株州を占領後長沙に集結○南支軍西江方面の作戦完了、新作戦に進撃開始○(モスクワに於て英米ソ三國會議を開催)

三十日 皇軍奉新に突入○(援ソ軍派遣の餘裕なしと英首相下院で言明)

十月 一日 皇軍長沙より反轉を開始の旨中支軍發表○皇軍沁河作戦を完了、敵遺棄死體二千、捕虜五千、砲十、重輕機百五十○南支部隊北江作戦地方より撤退○(フィンランド軍ベトロサウオドスク占領)

二日 皇軍、新舊黄河地區に作戦を展開、榮澤、中牟を占領○湖南作戦の戦果、敵遺棄死體六萬一千、捕虜六千五百、鹵獲兵器彈藥多數

三日 (イギリス東亞軍總司令官ヒルマ經由援將強化を言明○アメリカカ油槽船ホワイト號撃沈)

年 表

三三七

0623

十月

- 四日 皇軍鄭州を占領○帝國政府ポトランドの存在を否認、大使館の廢止を通告
- 五日 南支軍、今次作戰の戦果を發表、遺棄死體六千三百、捕虜六百八十、鹵獲兵器彈藥多數○(英米東亞軍首腦部のマニラ會談終る)
- 六日 皇軍河南作戰第一期を完了、戦果を發表、遺棄死體二千五百、捕虜二百八十、鹵獲兵器多數
- 七日 (ドイツ軍マリウポリ、ベルチヤンスク占領○フィンランド對ソ即時停戰憲憑のイギリス政府覺書を拒否す)
- 八日 (英・米・蘭協定成立し對日石油輸出全面的に禁止さる○ドイツ軍オリヨール占領○アフガニスタン中立聲明)
- 九日 中支軍長沙作戰の綜合戦果發表、遺棄死體八萬二千八百、捕虜八千三百、鹵獲兵器彈藥多數○(中立法改正に關する教書をルーズヴェルト大統領議會に送達○獨土通商協定調印)
- 十日 上海方面軍過去二箇年間の戦果發表、交戦回数六千三百、敵遺棄死體十二萬一千五百、捕虜一萬七千九百、歸順投降降兵六萬、鹵獲兵器彈藥多數
- 十二日 (ブリヤンスク撤退をソ聯當局發表)
- 十三日 宜昌周邊の敵殲滅戦々果、十三日まで敵遺棄死體一萬二千五百、捕虜六百○バラオ・チモール間に航空路開設○米・蘭印軍事會談開催)
- 十四日 山西肅正の九月中綜合戦果、敵遺棄死體五千三百、捕虜四千六百、鹵獲兵器多數
- 十五日 ノモンハン附近滿蒙國境確定し議定書調印さる○兵役法改正、在學年限の短縮を閣議で決定○

0624

(ソ聯政府我が大使館にモスクワ引揚を通告)

十六日 近衛内閣總辭職○我が駐ソ大使館ソ聯政府と共にモスクワを引揚げクイフインエフに移轉す○

(ドイツ軍オデッサ、カルガ、カリーニン占領を發表)

十七日 (ソ聯オデッサ放棄を公表○米驅逐艦カーニー號、アイスランド附近で襲撃さる)

十八日 東條内閣成立○(獨潜水艦北大西洋上で護送船十二隻を撃沈)

十九日 (モスクワに戒嚴令)

二十日 東郷新外相外交方針を闡明○晋察冀作戦を終了、戦果、遺棄死體七千二百、捕虜四千七百、鹵

獲兵器彈藥多數

二十一日 (泰・佛印國境畫定現地作業始まる○獨軍バルト海タゲ島、タカロンクおよびスターリノ占領發  
表)

二十二日 (米海軍院ウラチラ向授ソ船の運航停止を發表)

二十四日 バラオ・デリー間日葡航空協定の全文を情報局發表○(獨軍ハリコフを占領○ソ聯援蔣物資供

給停止を通告)

二十六日 皇軍山西省西部に新作戦展開

二十七日 (米大統領、援英・ソ・蔣策の強化を強調放送)

二十九日 (獨軍クリミヤ半島へ突入)

三十一日 皇軍作戦目的を達成鄭州を撤退○(獨軍ウオロコラムスク占領○米驅逐艦ルーベン・ゼームス

號アイスランド西方で撃沈)

年表

三三九

0625

十二月 年 日

三〇

一 日 皇軍、信陽北方に新作戦展開

三 日 皇軍、汝南を占領

五 日 皇軍、山東省に新作戦展開○皇軍確山占領○來栖大使、野村大使援助のため米國に派遣さる○

日本海上で機雷のため氣比丸沈没

六 日 氣比丸事件に關し、我方ソ聯に嚴重抗議す

七 日 (中立法改正案、米上院を修正通過)

九 日 信陽北方作戦終了、敵遺棄死體二千

十三日 (中立法改正案、米下院を通過)

十四日 ベルギー暴動事件解決(賠償金約百萬圓)に付、外務當局談を發表

十五日 (獨潜水艦、地中海において英航空母艦アークロイナル號を撃沈、戦艦マラヤ號に大損傷を與

(た旨獨司令部發表)

十七日 野村、來栖兩大使、ルーズヴェルト大統領、ハル國務長官と會談○(イラク政府、對日對佛外交

關係斷絶を公表)

十八日 日米第二次會談(野村、來栖大使、ハル國務長官)を開く

二十一日 (ハル米長官、英・濠・蘭・重慶代表と會談○獨軍ロストフを占領)

二十三日 (英軍、佛沿岸に上陸を企圖、獨軍に撃退さる)

二十四日 (蘭領ギアナへ派兵を米國政府發表)

二十五日 パラオ・テリト定期航空の第一便機(浦波號)出發○ベルリンに於て防共協定の五箇年延長に關

0626

する新議定書に調印を完了、中華民國、ルーマニア、ブルガリア、フィンランド、スロヴァキア、クロアチア、デンマークの七箇國新たに参加

二十六日 日米第四次會談、ハル長官より日本側に文書を手交

二十七日 日米第五次會談

二十八日 陸軍機昆明猛爆

三十日 日滿華三國締盟一周年記念日○陸軍機韶關、惠州を猛爆

十二月 一日 陸軍機南鄭を猛爆敵九機爆碎○日米第七次會談○(英東亞艦隊を編成の旨、シンガポール軍當局公表)

三日 日 (ハル國務長官、日米交渉の經過を暴露す)

四日 日 陸軍機西安猛爆

五日 日 日米第八次會談、ウエルズ次官の照會に對し我回答を手交

六日 日 皇軍河南作戦の綜合戦果發表、遺棄死體六千五百、捕虜三百、鹵獲兵器多數

七日 日 (東部作戦休止の旨獨軍司令部發表)

八日 日 帝國陸海軍本日未明西南太平洋に於て米英軍と交戦状態に入る

米英兩國に宣戦の大詔發○陸海軍將兵に對し優渥なる勅語を賜ふ○日・佛印間に軍事協定成立○日・泰間に交渉成り皇軍首都バンコックに進駐